

## 技術系とMBA

三菱電機 後藤 哲雄

世の中でおおよそ最も生産的なことはおそらく新しい商品を世に送り出すことでしょう。とりわけ技術系社員の方はその役割をご自身が存分に担っていると自負されているに違いありません。技術系社員の方はその商品の機能や性能を考えたり、時には機械的な構造を設計したり化学的な製造の方法を考えたりソフトウェアをプログラミングしたり解決することが盛りだくさんです。その成果を設計書や設計図面に作成するのはこのうえなく緻密な作業で骨が折れます。ベテランと称するにはかなりの知識と経験、そして努力が必要でしょう。しかし技術的な作業だけを完成させてプロだとかベテランと呼ばれるのでしょうか？技術系社員の方は最初はそういう技術的な課題で手がいっぱいになります色がんな商品を作り、色んなお客様と接してゆくと、別の側面も見えてくる方が多いのではないかと察します。どうして売れない、伸びない、利益が出ない、どの方向に事業を進めるか、どんな応用ができるのか、ロードマップはいかにとればよいか、イノベーションを起こせないのか、なぜコストが高い、開発費にいくらまわせるのか、社内がうまく回っていないのでは、良い人間関係を保つには？、教育は十分か、不具合を撲滅するには？、その事業は撤退か、など。これらのさまざまな課題は経営戦略と呼ばれ純粋な技術とは言えませんが、ご自身で全く解決に手も足も出ないわけではないでしょう。でも、ベストな解決方法にすぐにとどりつける方はまれで、試行錯誤を繰り返しながら根気強く前に進めるしかない方が多いでしょう。どんな手法があり、どの手法が効率的で、同様の問題を他社がどう切り抜けてきているのか、あまりピンと来ずもどかしい。そういう課題は技術的な課題を解決するのと同様に重要な事で、技術的な課題と同時進行で解決していかなければならないというのはすぐ理解できるがなかなか解決に至るものではありません。もちろん、課題の解決にはいろいろな手段があるでしょう。独学や独自の発想で解決する事も可能な人もいますし、偶然良い方法に出くわすこともあるでしょう。しかし、これまでの他社のケースに類似例を見たり体系的な知識の中での問題の位置付けがわかれば、正確な解決ができたり、問題に優先順位がつけられたり、解決にスピードが出ることは容易に想像できます。学びの場はそのような時の強い味方ではないかと思えます。どんな会社でも独自の社風を持っていて少し閉鎖的なところが多いでしょうが、多くの人に巡り合う事でそういう閉塞的な思考に風穴を開けていく事も可能になることでしょう。会社のマネージャーなどリーダーを目指す方には解決のスピードは一層魅力的でしょう。自分自身がスキルアップをし考え方を変えて、キャリアアップし若手を育てていく、そういうスタイルが技術系社員の方には求められているのではないかと思えます。一度集中して学びの場で体系的な知識を得る時間を捻出することを検討してみてください。時間の遣り繰りの戦いになると思いますが、事情が許す方はぜひ勉学にお進みになって下さい。自らのスキルアップは、会社自体の清栄につながり、会社の清栄は社会全体の発展につながっていくという壮大なストーリーを信じます。技術系の社員の方は緻密な作業に慣れているのが強みですので、あと一步でもそれを周辺に視野を広げる努力をすることによって成功を導く素質が備わっていると思えます。論語より引用すると吾十有五にして学に志、三十にして立つ、四十にして惑わず、といひます。もちろん技術系社員の方に限りません。志と活気のある場をみなさんと共有できたら幸いと存じます。